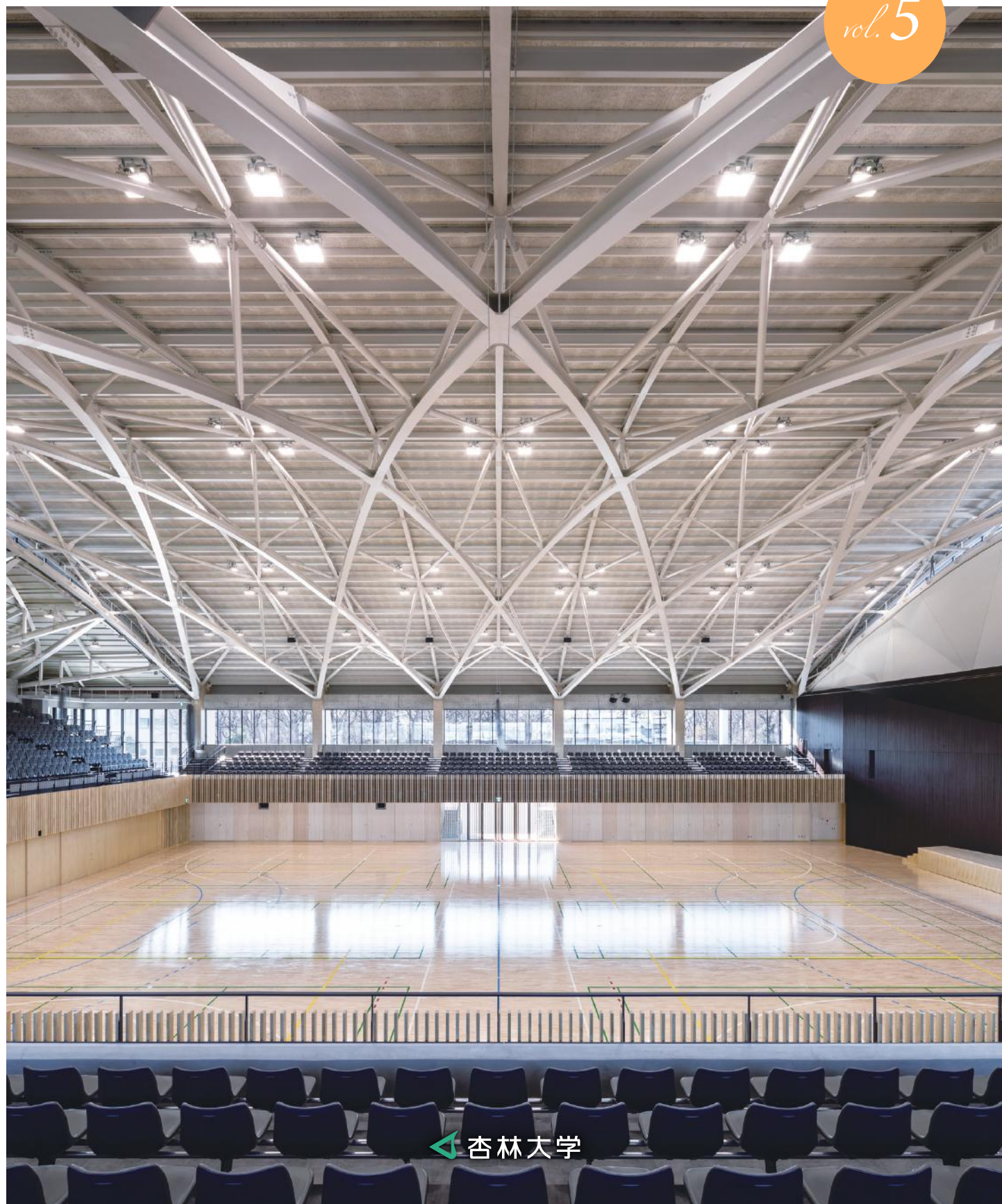


2021 | 春 | あんず

K y o r i n M a g a z i n e A n z u

vol. 5



あんず 春 Contents

02 …… キャンパスカレンダー	11 …… 学生情報
04 …… 新年度にあたって	12 …… 新入生にコロナ特別講義実施、国際交流、オープンキャンパス予定
06 …… 2021年度 事業計画	13 …… 医学部付属病院
08 …… 2021年度 学園予算	14 …… 新校地の整備状況
09 …… 人事情報	15 …… 手術室増築計画、ご寄付の報告 他
10 …… 学部長 新年度にあたって	

3月 松田進勇記念アリーナ竣工



2019年11月から建設が進められていたアリーナが完成し、竣工式が執り行われました

付属病院での新型コロナウイルス感染症 対応



年末年始に新型コロナウイルス感染症 患者の対応に追われる病院



3月上旬から、医療スタッフを中心にワクチン接種が開始され、2回目の接種も概ね終了しています



3月 学位記授与式を挙行



新型コロナウイルス感染症防止のため卒業式に代わり、規模を縮小して学部ごとに学位記授与式を実施。
学部生、院生計1,147名が杏林大学を卒業しました



感染対策をとりながら、2021年度新学期が開始されました。(学生が戻ってきた井の頭キャンパスの風景)

4月 令和3年度入学式を挙行



学部生、院生計1,396名が入学。
感染対策のため、学部別に2日間、午前午後に分かれアリーナで式が開催されました



各学部・学科で新年度ガイダンスや授業が始まりました



医学部では感染対策のため、アリーナでも授業を行っています



学生の課外活動も開始。硬式野球部では春季リーグ戦に臨んでいます

新年度にあたって



学園長・理事長
松田 博青
Hiroharu Matsuda

2021年4月からの新年度も昨年度と同様にコロナ感染症の影響で異例の幕明けとなりましたが、私共は引き続き「真・善・美の探究」の創立理念に基づく事業を継続して参ります。

私共は教育研究機関として、また医療機関として秀れた教職員の確保に加えて、学園内の環境設備等を更新しつつ次の世代に必要な人材の育成を使命としております。世の中は絶えず変化を続けており、人々の考え方や価値観も変化しつつあります。この変化の中には人口減少の問題もあり、私共の課題の一つは如何にして引き続き多くの秀れた若者を私共の学園に迎えるかであります。この為にも秀れた教職員の確保に加えて、環境設備の改善の面でも新体育館の完成に引き続き講義棟の新設、手術室の増設を行っております。

もう一つの課題は資金の確保であります。学園の収入は学納金、医療及び各種補助金が主であります。学園環境の向上にはこれだけでは不十分であり外部資金の確保が課題であります。

他にも種々の課題がありますが、私共は変化する社会の中にあって、学園の目的を変えることなく、その目的達成の手段方法は社会の変化に対応させながら事業を進めて参ります。

引き続き皆様の御指導御協力を御願い申し上げてご挨拶と致します。



副理事長
松田 剛明
Takeaki Matsuda

新年度が始まりましたが、未だ新型コロナウイルス感染症は衰えることなく感染拡大を続けています。一方、我々はこれまでに300人以上の患者の入院加療を行い、その過程で院内クラスターも経験しましたが、医学部付属病院の関係者が一丸となり難局を乗り越えてきました。変異種の脅威が迫っていますが、我々はこれまでの経験から感染防御や治療について自信を持って対応出来ると確信しております。

感染の第4波が押し寄せる中で対面授業を中止する大学もありますが、本学では上述した医療体制を整えておりますので、遠隔授業を併用しつつも出来るだけ通常通りの活動を継続する予定です。この感染症との闘いはまだまだ続きますが、教職員や学生達と正確な情報を共有し、油断することなく、過剰に恐れることなく、皆の力を合わせて乗り越える所存です。

現在、三鷹キャンパスのグランドデザイン計画も順調に進行し、本年4月には完成したばかりの松田進勇記念アリーナで入学式を挙行了しました。新入生と保護者の皆さんの晴れやかな笑顔が印象的であり、無事開催出来た事を大変嬉しく思います。来年3月に竣工予定の新講義棟に続いて、リサーチセンターの建設も進めて行く予定です。コロナ禍で病院経営を含む大学の財務体制の安定化は困難を極めますが、本学の使命である学生教育の充実と医療体制の整備を予定通り推進致します。また、それに向けてこれまで以上に外部資金の獲得を目指すため、新たに設置した募金委員会を中心に広く募金活動を行っております。私の目標は本学を国際的な総合大学に発展させることであり、社会に必要とされ人の役に立つ人材育成に力を注ぎたいと考えております。皆様にはこれまで以上のご支援をお願いし、新年度にあたってのご挨拶と致します。

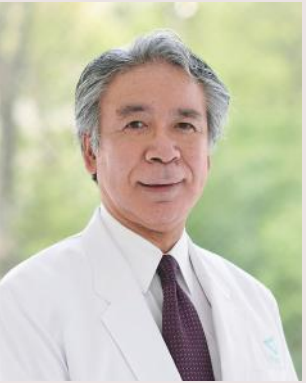


学長
大瀧 純一
Junichi Otaki

新型コロナウイルス感染症の影響で、杏林大学全体の卒業式と入学式は行われませんでした。3月には学部別の学位記授与式、4月3日・4日には学部別の入学式が行われました。特に入学式はオープンしたばかりの松田進勇記念アリーナで行われたこともあり、新入生だけでなく多数のご家族が参列していただき、盛大に式を挙行することができました。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだありますが、今年度は対面授業を中心に授業を行うこととしております。昨年度は遠隔授業を中心に行いましたが、遠隔授業の優れた点や期待はずれの面も見出すことができました。優れた点としては知識の伝達の容易さがあげられ、通信機器の発達やデジタル化により、ほとんど不自由なく行うことができ、学生の満足度も高い状態でした。しかし、一人ひとりの人間性の形成の面からはやや不十分であり、本学の建学の精神から見ると、真の探究が主となり、善美の探究は思うようには進まなかったと言えます。

今年度は対面授業を通して、多少遅れ気味の善美の探究を推し進め、社会で求められ人材の育成に努めて行きたいと思っています。



病院長
市村 正一
Shoichi Ichimura

新型コロナウイルスに苦しめられて1年以上が過ぎました。昨年は4月7日から5月25日まで東京都に「緊急事態宣言」が出されましたが、今年も新年度に入り患者数は徐々に増加しており、また変異ウイルスの影響を考えるといつ第3波を超えるピークが来てもおかしくない緊張した状況が続いております。このため4月12日から東京都に「まん延防止等重点措置」が、さらに4月25日には3度目の「緊急事態宣言」が出されました。

一方、ワクチン接種は予定よりは遅れておりますが医療従事者が優先的に接種されており、当院では4月中にほぼ完了しました。高齢者への接種は開始されたばかりですが、今後ワクチンの供給量が増えれば順調に進むことが予想されます。一般的に今回のようなパンデミックでは最低2年間は続くと考えられますので、次の冬まではいつピークが来てもおかしくありません。ただし、その頃までには若い世代にもワクチン接種が完了していることでしょうかから、この冬の第3波ほどのピークにはならないと予想されます。そう考えますと、この目の前の2-3か月をなんとか凌ぐことが重要となります。5月の連休も残念ながら遠出はできませんでしたが、その先には通常の日常生活が待っていることを信じて、今しばらくは辛抱の時期と思います。

令和3年度 事業計画（重点事業）

学園事務局

重点事業 （1）教育の質向上に向けた取り組み （2）研究体制の強化 （3）優秀な学生確保 （4）キャリア支援の向上
（5）情報基盤の整備 （6）地域交流活動 （7）医療体制 （8）学園運営体制の整備 （9）財務体質の強化

重点事業 ・ 項目	具体的施策
1 教育の質向上に向けた取り組み	
＜医学部＞ ・医学教育分野別評価受審の過程で明らかにされた改善必要事項への対応 ・不測の事態を考慮した教育システム・体制の構築	・受審の過程で明らかとなった改善必要事項につき計画的に改善を進めその進捗状況を定期的に報告する。 この作業を通じて、教育改善委員会において改善必要事項の整理及び改善実施計画の策定を行う ・感染症蔓延や自然災害等、不測の事態下においても教育の継続が可能となる講義・実習等のあり方、必要とされる体制の構築を教務委員会を中心に検討する
＜保健学部＞ ・効果的な遠隔授業の実施	・対面授業を原則としつつ、多人数あるいは横断的・基礎分野の座学においてはオンライン・オンデマンド授業の利点を生かし、学生の満足度の高い遠隔授業を実施するための整備を行う ・データサイエンスを専門とする教員を採用しビッグデータ解析、AI等の応用に関する知識・技能等、時代に即した学生教育に着手する
＜総合政策学部＞ ・「Withコロナ」の時代において質の高い授業を提供する	・感染予防をしつつ、対面、オンライン、ハイブリット型等の提供方法を適切に組み合わせ、より多くの学生が満足できる授業を提供する
・データ・デザイン・プログラム等の新設を含む新カリキュラム導入に向けた準備 ・入試改革の検討と実施	・令和4年度から導入の新カリキュラムを準備。ビジネスの現場において情報系のスキルを活用できる人材の育成を目指したデータ・デザイン・プログラムは、令和3年度入学者も履修できるように対応する ・前年度の経験を踏まえ総合選抜型入試と推薦入試のあり方を検討する
＜外国語学部＞ ＜ポストコロナ教育の質向上に向けた取り組み＞ ・成果の測定とカリキュラム・マネジメントの確立 ・学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を測定する入学者選抜の実施と入試改革 ・学生の満足度向上	・新カリキュラム実施に伴いアセスメント・プラン及びポリシー策定に向け詳細を調整、教育の質保証を推進。新型コロナウイルスの動向を考慮しつつ対面授業とオンライン授業の兼ね合いを取っていく ・学力の三要素を踏まえ、多面的・総合的に入試全体の選抜方法・問題を継続的に検討・実施する ・特に「学生相談・支援の充実」、「学生間交流機会の創出」、「学生・教員間の交流機会の創出」、「専門教育の充実」に注力する
＜医学研究科＞ ・教育体制強化のための取り組み	・関連専門領域の教員の参画による指導補助体制を構築。社会情勢の如何に係らず学びが継続できるような教育体制を目指すため、講義・研究指導のあり方についての検討を開始する
＜保健学研究科＞ ・効果的な遠隔授業の実施	・感染予防として従来型の対面授業を見直しICT技術を最大限活用した遠隔授業及び学生間双方向対話（ZOOM等）を促進する ・2022年度に開講予定の博士前期課程につきカリキュラムを精査する
・臨床心理学専攻大学院のカリキュラムの充実	
＜国際協力研究科＞ ＜ポストコロナ教育の質向上に向けた取り組み＞ ・博士前期課程への進学者増加のための取り組み	・学部生が内部進学する場合の大学院入学金の無償化を実施。大学ホームページを随時更新して勉学に励む学生を紹介する等、外部への広報活動を活発に行う
＜高大接続推進室＞ ＜高大接続・高大連携の継続・推進＞ ・アドバンストプレースメント（AP）の継続	・APを継続して行い、高校生向けに春・秋学期授業を開放する。高校と大学の時間割を考慮して、科目の開講時期を通常期から夏季・春季休業期間に重点を置き、夏季・春季集中科目を充実する ・APラウンドテーブルを開催し、グローバル人材育成を共通目標とする高校との意見交換、連携強化を図る
・APラウンドテーブルの継続開催	
＜国際交流センター＞ ＜国際交流・グローバル人材育成の推進＞ ・学生の海外留学・研修の促進 ・協定校外国人留学生受入れのサポート強化	・相互利益となる海外協定校を開拓。中国語・英語圏で交換留学を増やす ・感染防止に対応した留学生寮の運営を行う。短期留学後帰国した学生の本学大学院進学を促進するため、入学前相談、ビザ取得支援を行う
＜図書館＞ ・学習・教育支援	・データベース、電子リソースの利用講習等の充実を図る。シラバスに記載された教科書、参考書を電子ブックにより提供できるようにする
＜学生支援センター＞ ＜学生支援業務の整備と効率的な運用＞ ・学生相談室業務の人的拡充	・コロナ禍の影響もあり増加傾向にある学生相談に応えるべく学生相談室に常駐できる専任者の拡充を検討する
・就学継続相談窓口の設置	・修学継続支援窓口を設置。進路変更等において支援が必要な学生を一元的に把握、相談内容により各部署へ繋ぐ窓口として連携を強化する
＜保健センター＞ ＜健康保健活動の質向上に向けた取り組み＞ ・新型コロナウイルス感染症予防	・医療安全管理部感染対策室・医学部事務課・保健学部看護学科と情報共有し、新型コロナウイルスへの感染予防を図る
・心身の健康支援	・学生、教職員の心身の健康の保持増進を図る。健康診断、予防接種、感染症予防、感染症抗体検査及び保健に関する知識の普及・啓発等
2 研究体制の強化	
＜医学研究科＞ ・研究環境の整備を目指した取り組み	・管理体制見直しにより、共同研究施設のより効率的な運用を目指すとともに、研究者の利便性の向上に向けた取り組みを引き続き行う
＜保健学研究科＞ ・大学院学生の研究指導の充実	・医学研究科と連携した学術講演会への参加を促進。定期的なセミナーはオンライン・オンデマンド配信により活性化。
＜国際協力研究科＞ ・国際交流の更なる促進	・新型コロナウイルスにより実施できなかった令和2年度の海外協定校への短期訪問や研究交流の検討会は、ZOOMでの開催等の代替案を用いて実施する
＜研究推進センター＞ ＜研究活動の活性化＞ ・科学研究費補助金の獲得のための支援	・過年度の状況を検証・分析のうえ、必要な情報提供、コーディネート機能をきめ細かく行い、科研費獲得セミナー・ワークショップと連動して相乗効果が上げられるように戦略的に実施する
・研究倫理教育充実の施策の実施	・APRINによるe-learningの受講を推進し受講率を高め、学術研究の信頼性と研究費執行の透明性を一層充実する

重点事業 ・ 項目	具体的施策
＜男女共同参画推進室＞ ＜女性・若手研究者研究活動支援＞ ・研究支援員制度の充実化	・より充実した制度とするために運営基盤・方法等を発展的に見直し継続する。特にオンラインによる研究支援のあり方につき検討する
・研究力向上のためのセミナー等の開催	・ランチョンセミナー、トワイライトセミナー、交流を目的としたミーティングを適宜開催。オンライン開催についても検討する
＜図書館＞ ・施設・設備の整備と有効活用	・研究に必要なデータベース、電子ジャーナル、電子ブック等の利用環境を整備、コンテンツが有効活用できる仕組み作りを進める
3 優秀な学生確保	
＜入学センター＞ ・総志願者数（令和2年度実績）を更新する	・広報室と連携を強化し業者発行の刊行物やSNS等のWeb企画の有効活用を図り、受験者（高校1・2年生を含む）・保護者及び高校教員へのアプローチを強化する
・オープンキャンパス・進路相談会等の充実を図る	・Webオープンキャンパスとオンライン相談会を充実し、併せて対面型オープンキャンパスを有効的に活用する
4 キャリア支援の向上	
＜キャリアサポートセンター＞ ＜「ポスト・コロナ」時代に向けた就職支援の見直し強化＞ ・「より早く」学生の意識とスキルの向上 ・「より深く」教員や企業との連携 ・「よりきめ細かく」学生への支援と指導	・キャリア教育と支援イベントを効果的に組み合わせ就職意識を高める ・教員との連携を「より深く」密にして、学生ひとりひとりの希望や動向を把握する ・face to faceによる個別の指導体制を強化し、学生に気づきを与えながら成長を促すことで満足度の高い企業への就職を支援する
5 情報基盤の整備	
＜総合情報センター＞ ＜Withコロナ時代の授業支援とセキュリティ規程の整備＞ ・情報セキュリティ対策 ・授業の円滑な運営に向けた学内LANの回線増強と学事システムの最新化 ・ワークフロー（電子決裁）へのアプローチ	・情報セキュリティ基本規程の下位文書として各種対策基準、実施規程等を整備する ・オンライン授業・ハイブリッド型授業に備え学内LAN回線の帯域速度を向上。学事システムを最新化、スマホ対応を含め授業支援を充実させる ・電子決裁システムを導入し、導入効果の高い文書類から利用を開始する
6 地域交流活動	
＜地域交流推進室＞ ＜コロナウイルス状況を踏まえた新たな活動の推進＞ ・杏林CCRC研究所の発展的改編	・地域社会を舞台とした研究に対する学内外のニーズは高いことから視野をより広く持って機動的に動く組織として研究所の改編を検討
・連携自治体内における産学官連携活動の強化	・包括的連携協定を締結している3市との連携活動を継続。また、地域志向研究も含め、調布市など近隣地域を舞台とした活動を推進する
7 医療体制（付属病院）	
健全な病院経営と特定機能病院としての地域医療への貢献の促進 ・健全な病院経営と診療内容の質的向上	・データを活用した病院経営の改善。産科病棟改築による周産期医療の充実。手術室の効率的な運用と増築による手術件数の増加。放射線治療器やPET-CTの効率的な運用。がんゲノム医療やがん遺伝子治療の促進による高度な癌診療の実現。高難度新規医療技術の導入促進の継続 ・新型コロナウイルスの院内感染防止の徹底。全職員に対する院内感染防止と医療安全教育の促進。職員教育における病院ホームページの有効活用
・院内感染防止対策の強化と医療安全の推進	・医師の働き方改革に関する時短推進計画の作成。夜勤看護師の安定的確保の推進と看護師の時間外勤務時間の短縮。特定行為研修看護師教育課程の開始と専門・認定看護師の活用促進。総合研修センターによる職員教育の統一化の促進。医師事務作業補助者の増員と業務拡大による医師業務負担の軽減。
・職員の勤務環境の改善と人材育成の推進	・リモート会議を活用した院内諸会議の効率化の促進 ・リモートネットワークを活用した地域医療機関との連携強化。地域医療機関とのICT導入に向けた環境整備の促進。東京都のドクターヘリ運用開始とその活用。患者予約システムの改善による初診患者数の増加
8 学園運営体制の整備	
・組織の改編	・経営企画室を新設。学園の運営に関するデータ収集と分析により法人、大学、付属病院の経営改善等を策定する
・大学・病院を支える人材の確保・育成、働き方改革の促進 ・教職員の健康面へのサポート強化 ・生産性向上のサポート強化 ・広報戦略の継続的強化とコロナ時代の新機軸推進	・学園方針に沿った人材の確保 ・保健センターとの連携によるサポート ・IT、AIの活用による効率性向上へのサポート
・ウェブ媒体の継続的な改善と有効活用	＜広報戦略＞ ・広報媒体の一層のブラッシュアップを図る一方、新型コロナという時代状況に対応した新たな広報を多面的に進めていく ・大学公式ホームページは基本的に前年度までの方針を踏襲して改善を進める一方、Web検索で大学に誘導するSEO対策などを積極展開する
・新型コロナの時代と共存する広報戦略の推進	・大学への来訪が不可能な場合等に備えWebで完結する広報の方式を検討し実施。多様な新技術を積極的に導入し活字媒体にも拡張現実の技術を取り入れリアリティあるキャンパス体験で受験生の興味を喚起する
9 財務体質の強化	
・財政基盤の健全化	・学園の事業計画に基づく施設設備計画を十分に把握し予算管理に努め収支改善を行う ・医学部新講義棟建設工事、中央手術室増築工事等の大型工事が計画されているため、資金管理を慎重に行い効率的な運用に努める

事業計画の詳細は、大学 HP「経営・財務情報」に掲載しています。

令和3年度 予算について

資金収支予算の概要

総資金収入は620.73億円、総資金支出は645.09億円の規模である。令和2年度（決算見込）からの繰越金は104.37億円。令和3年度予算の翌年度に繰越す金額は91.74億円となり、繰越金が12.63億円減少となる予算となった。

< 資金収支 >

収入の部 （単位：億円）		
科 目	令和3年度予算	令和2年度予算
学生生徒等納付金収入	113.13	113.31
手数料収入	4.89	5.39
寄付金収入	5.39	4.92
補助金収入	33.37	19.55
資産売却収入	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	5.59	5.23
医療収入	364.40	384.83
受取利息・配当金収入	0.12	0.10
雑収入	3.97	3.89
借入金等収入	0.00	0.00
前受金収入	18.10	18.37
その他の収入	71.71	73.54
小 計	620.73	629.16
資金収入調整勘定	△80.39	△76.98
前年度繰越支払資金	104.37	74.51
収入の部合計	644.71	626.69

支出の部

（単位：億円）		
科 目	令和3年度予算	令和2年度予算
人件費支出	228.11	230.34
教育研究経費支出	29.35	30.06
医療経費支出	186.30	188.39
管理経費支出	27.56	28.64
借入金等利息支出	1.62	1.61
借入金等返済支出	9.94	9.94
施設関係支出	66.82	48.65
設備関係支出	24.39	15.97
資産運用支出	12.93	13.75
その他の支出	57.01	58.27
予備費	1.00	1.00
小 計	645.09	626.66
資金支出調整勘定	△92.12	△65.43
翌年度繰越支払資金	91.74	65.47
支出の部合計	644.71	626.69

※百万円未満を切り捨て、合計額においては差異を生じる場合がある。

事業活動収支予算の概要

事業活動収入計は531.40億円、事業活動支出計は528.42億円である。その結果基本金組入前当年度収支差額は2.97億円の収入超過予算となった。

令和2年度（決算見込）の前年度繰越収支差額は△883.55億円、令和3年度（予算）の当年度収支差額は△45.65億円となり、翌年度繰越収支差額は△929.21億円の予算となった。

< 事業活動収支 >

（単位：億円）				
教育活動収支	事業活動	科 目	令和3年度予算	令和2年度予算
		学生生徒等納付金	113.13	113.31
		手数料	4.89	5.39
		寄付金	4.48	5.76
		経常費等補助金	32.07	17.93
		付随事業収入	5.59	5.23
		医療収入	364.40	384.83
		雑収入	3.87	3.89
		ア) 教育活動収入計	528.47	536.36
	事業活動	人件費	231.86	233.59
		教育研究経費	44.81	45.72
		医療経費	215.05	216.92
		管理経費	32.80	33.60
		徴収不能額等	0.01	0.01
		イ) 教育活動支出計	524.54	529.87
		A) 教育活動収支差額	3.92	6.51
教育活動外収支	事業活動	受取利息・配当金	0.12	0.10
		その他の教育活動外収入	0.00	0.00
		ウ) 教育活動外収入計	0.12	0.10
	事業活動	借入金等利息	1.62	1.61
		その他の教育活動外支出	0.00	0.00
		エ) 教育活動外支出計	1.62	1.61
		B) 教育活動外収支差額	△1.49	△1.51
特別収支	経常収支差額 (A+B)		2.42	5.00
	事業活動	資産売却差額	0.00	0.00
		その他の特別収入	2.80	2.00
		オ) 特別収入計	2.80	2.00
	事業活動	資産処分差額	1.25	0.23
		その他の特別支出	0.00	0.00
		カ) 特別支出計	1.25	0.23
		C) 特別収支差額	1.55	1.77
	D)〔 予備費 〕		1.00	1.00
	基本金組入前当年度収支差額 (A+B+C+D)		2.97	5.77
	基本金組入額		△48.63	△47.10
	当年度収支差額		△45.65	△41.32
	前年度繰越収支差額		△883.55	△846.66
	基本金取崩額		0.00	0.08
	翌年度繰越収支差額		△929.21	△887.90

事業活動収入計 (ア＋ウ＋オ)	531.40	538.48
事業活動支出計 (イ＋エ＋カ＋予備費)	528.42	532.70
事業活動収支差額 (A＋B＋C＋D)	2.97	5.77

※百万円未満を切り捨て、合計においては差異を生じる場合がある。

予算・決算の詳細は、大学HP「経営・財務情報」に掲載しています。

人事情報

2021年度 杏林学園役員

役 職	氏 名	現 職
理事長	松田 博青	学園長・大学名誉教授
副理事長	松田 剛明	大学教授
理 事	大瀧 純一	大学長
理 事	渡邊 卓	大学医学部長・医学研究科長
理 事	岡島 康友	大学保健学部長・保健学研究科長
理 事	北島 勉	大学総合政策学部長
理 事	坂本ロビン	大学外国語学部長・国際協力研究科長
理 事	市村 正一	大学教授（附属病院長）
理 事	田口 晴彦	大学教授（保健学部教務部長）
理 事	内藤 高雄	大学教授（総合政策学部教務部長）
理 事	岩本 和良	大学教授（外国語学部教務部長）
理 事	小塩 節	フェリス女学院特別顧問・中央大学名誉教授
理 事	鈴木 武夫	鶴岡学園理事長・北海道文教大学学長
理 事	甲能 直幸	立正佼成会附属佼成病院病院長
理 事	鈴木典比古	公立大学法人国際教養大学理事長・学長

役 職	氏 名	現 職
監 事	則定 衛	弁護士・元東京高等検察庁検事長・元法務事務次官
監 事	石井 道遠	(株)東日本銀行特別顧問、元国税庁長官

2021年度 就任教授

学 部	所属教室/学科	氏 名	職 位
医 学 部	眼科学	山田 昌和	教授
医 学 部	麻醉科学	徳嶺 譲芳	教授
医 学 部	眼科学	慶野 博	臨床教授
医 学 部	麻醉科学	森山 潔	臨床教授
保 健 学 部	臨床検査技術学科	大森 拓哉	教授
保 健 学 部	臨床検査技術学科	坪下 幸寛	教授
保 健 学 部	臨床工学科	磯山 隆	教授
保 健 学 部	看護学科看護学専攻	柴崎 美紀	教授
保 健 学 部	看護学科看護学専攻	金子多喜子	教授
保 健 学 部	看護学科看護養護教育学専攻	佐藤ユキ子	教授
保 健 学 部	看護学科看護養護教育学専攻	田原 美香	教授
保 健 学 部	看護学科看護養護教育学専攻	藤田 千春	教授
保 健 学 部	診療放射線技術学科	小池 貴久	教授
保 健 学 部	臨床心理学科	新井田素子	教授
外国語学部	観光交流文化学科	古本 泰之	教授

2021年度 大学役職者

役 職	氏 名	役 職	氏 名
学長	大瀧 純一	教務部長（医学部）	大西 宏明
学部長（医学部）	渡邊 卓	教務部長（保健学部）	田口 晴彦
学部長補佐（医学部）	平形 明人	教務部長（総合政策学部）	内藤 高雄
学部長（保健学部）	岡島 康友	教務部長（外国語学部）	岩本 和良
学部長（総合政策学部）	北島 勉	学生部長（医学部）	渡邊衛一郎
学部長（外国語学部）	坂本ロビン	学生部長（保健学部）	望月 秀樹
医学研究科長	渡邊 卓	学生部長（総合政策学部）	渡辺 剛
保健学研究科長	岡島 康友	学生部長（外国語学部）	志村 良浩
国際協力研究科長	坂本ロビン	医学研究科教務担当	大木 紫
医学部付属病院長	市村 正一	保健学研究科教務担当	八並 光信
付属図書館長	櫻井 裕之	国際協力研究科教務担当（国際開発）	西 孝
医学分館長	櫻井 裕之	国際協力研究科教務担当（国際文化交流）	荒川みどり
井の頭分館長	荒川みどり	国際協力研究科教務担当（国際医療協力）	北島 勉
キャリアサポートセンター長	平石 富男	国際協力研究科教務担当（国際言語コミュニケーション）	宮首 弘子
国際交流センター長	稲垣 大輔	国際協力研究科教務担当（グローバルコミュニケーション）	荒川みどり
入学センター長	岡田 洋二	保健センター長	岡本 晋
学生支援センター長	望月 秀樹	地域交流推進室長	古本 泰之
研究推進センター長	大木 紫		
国際協力研究科教務担当（開発問題）	西 孝		

2021年度 名誉教授

学 部	所属教室	氏 名
医 学 部	感染症学	神谷 茂
医 学 部	耳鼻咽喉科学	甲能 直幸
医 学 部	泌尿器科学	東原 英二

2020年度 定年退任教授

学 部	所属教室	氏 名
医 学 部	消化器・一般外科学	森 俊幸
医 学 部	小児科学	楊 國昌
医 学 部	麻醉科学	鎮西美栄子
保 健 学 部	臨床検査技術学科	渡部 和彦
保 健 学 部	臨床検査技術学科	大迫 俊二
保 健 学 部	看護学科看護養護教育学専攻	松尾ひとみ
保 健 学 部	診療放射線技術学科	黒木 一典
保 健 学 部	臨床心理学科	山本 寛
保 健 学 部	臨床心理学科	古川 佳子
総合政策学部	企業経営	知原 信良
外国語学部	英語学科	赤井 孝雄
外国語学部	中国語学科	詹 満江

学部長 新年度にあたって

医学部



医学部長
大学院医学研究科長
渡邊 卓

COVID-19の影響続くなか医学教育の更なる充実を

今年度もまた、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延が続く中でのスタートとなりました。医学部では、昨年度に実施された対面及びオンライン教育のメリット、デメリットを慎重に検討した結果、今年度は可能な限り、対面での講義、実習を実施する方針と致しました。考え得る万全の対策を講じたうえでの実施となります。また長引くコロナ禍の影響も考慮し、学生の様々な悩みや問題に対する相談・対応にも一層力を注いで参ります。

一方、医学部の教育環境の整備・改善に向けた動きも着実に進行しております。新体育館「松田進勇記念アリーナ」は本年3月に竣工しました。これに隣接して建設中の「医学部講義棟」には、各種授業に対応可能な教室とともに、学生生活に必要なとされる最新のアメニティが整備されることとなります。来年度からの使用を目指して準備が進められております。

以上、コロナ禍にあっても、引き続き医学部における教育の充実に努めて参りますので、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

保健学部



保健学部長
大学院保健学研究科長
岡島 康友

新しい時代に即したプロフェッショナルの育成を目指して

保健学部は保健、医療、福祉、教育関連で求められる幅広いプロフェッショナルを養成しています。特徴の1つは高度医療を提供する付属病院の存在です。保健学部の9学科2専攻の多くが、付属病院での臨床実習を通してそのメリットを享受しています。

もう1つの特徴は学際的なカリキュラムの存在です。医学部の協力のもと保健学系の共通科目も刷新いたしました。加えて時代の先端を行くデータサイエンス系の科目にも力を入れることになりました。政府の掲げる Society 5.0 は人工知能技術の普及によって、保健系の教育にとっても重要となると言われていて、それに対応するのは大学の使命と考えます。まだまだ新型コロナウイルス禍は続きますが、教職員一丸となって学生の学習継続に努めて参る所存です。卒業生の更なる活躍を祈念するとともに、在学生保護者の皆様には今後ともご支援をお願い申し上げます。

総合政策学部



総合政策学部長
北島 勉

デジタル社会に対応 新カリキュラム導入へ

総合政策学部は、来年度から新たなカリキュラムを導入する予定です。従来からの社会科学系7分野(政治、経済、法律、国際関係、福祉政策、経営、会計)による学際的な教育をベースとし、実践的な学びの機会を提供するプログラムを強化、新設します。

グローバル人材育成を目指した Global Career Program(GCP)は導入から6年目を迎え、これまでの成果と課題をもとに、英語で社会科学を学ぶための橋渡しとなる科目の新設や英語で提供する専門科目を増やしました。また、Data Design Program(DDP)とCommunity-based Learning(CBL)を新設します。DDPは社会の情報化、デジタル化に対応し、ITエンジニアとビジネスの現場を繋ぐことができる人材の育成を目標とします。CBLでは、近隣や地方の自治体等からの協力のもと、学生が地域や企業などが抱えている課題の解決に取り組みます。

学際的な学びと3つのプログラムを有機的に結びつけることにより、学びにおけるシナジー効果が生まれることを期待しています。

外国語学部



外国語学部長
大学院国際協力研究科長
坂本ロビン

活躍の場を選ばないマルチリンガルへ

この1年間、私たちは皆、ITが生活の中で重要な役割を果たすことを経験しました。そのため外国語学部では、学生が新しい世界への準備を整えられるよう4月から新しいカリキュラムを開始しました。すべての学生は、1年目にデータリテラシーとデータサイエンスの必修科目を学びます。テクノロジーはコミュニケーションのもう一つの言語として考えてもらい、そのスキルとことばを通して主体的に人とつながり、人を大切にしながら、協働して社会に貢献することができる国際人になってもらいたいと思います。英語学科、中国語学科の学生は、言語、歴史、文学を背景とした主要言語を学ぶことに焦点を当てた科目を幅広く学ぶことができます。観光交流文化学科では、ウェルネスツーリズムと地域創造による観光の新時代を反映したコースを追加しています。

将来を予測することはできませんが、多言語でのコミュニケーションができ、どんな環境でも挑戦していく精神があれば、才能が花開き社会の一員として貢献できるようになると信じています。

学生情報

在学生数 (2021年4月 現在)

	学 部	学 生 数
学 部	医学部	718
	保健学部	2,823
	総合政策学部	1,002
	外国語学部	1,055
学 部 合 計		5,598
	研 究 科	計
大 学 院	医学研究科	69
	保健学研究科	43
	国際協力研究科	41
大 学 院 合 計		153
総 計		5,751

2020年度 学位授与者数

	学 部	2020年度卒業 学位授与者数	累計学位授与数
学 部	医学部	120	4,442
	保健学部	559	9,734
	総合政策学部	224	10,488
	外国語学部	241	9,179
学 部 合 計		1,144	33,843
	研 究 科	学位授与数	累計学位授与数
大 学 院	医学研究科	17	1,101
	保健学研究科	8	406
	国際協力研究科	15	1,101
大 学 院 合 計		40	2,608
総 計		1,184	40,439 *

*看護専門学校生含む

2020年度3月卒業者 学園長・学長賞 表彰学生

医学部	後藤 健太	御影 杏菜	徳留 真愛
保健学部	植草 楓子	石黒 三貴	青柳佐哉佳
総合政策学部	月岡 杏菜	小田 智美	氏家 優
外国語学部	乙戸 智美	亀谷 京子	原 千裕

2021年度入試 志願者数

学 部	学 科	専 攻	志願者数
医 学 部	医学科		3,107
	臨床検査技術学科		833
	健康福祉学科		229
	看護学科	看護学専攻	1,936
		看護養護教育学専攻	473
	臨床工学科		294
	救急救命学科		267
	理学療法学科		742
	作業療法学科		253
	診療放射線技術学科		1,042
保 健 学 部	臨床心理学科		419
	小 計		6,488
	総合政策学科		829
	企業経営学科		593
	小 計		1,422
	英語学科		845
	中国語学科		315
	観光交流文化学科		555
	小 計		1,715
	総 計		12,732

2021年度 入学者数

	学 部	学 生 数
学 部	医学部	115
	保健学部	715
	総合政策学部	259 *
	外国語学部	273 *
学 部 合 計		1,362
	研 究 科	学 生 数
大 学 院	医学研究科	10
	保健学研究科	14
	国際協力研究科	10
大 学 院 合 計		34
総 計		1,396

*編・転入生含む

2020年度 国家試験結果

学部	資格	国家試験合格率(新卒)	全国平均
医学部	医師	96.7%	94.4%
保健学部	臨床検査技師	96.0%	91.6%
保健学部	社会福祉士	57.1%	29.3% *
保健学部	看護師	100.0%	95.4%
保健学部	保健師	100.0%	97.4%
保健学部	助産師	100.0%	99.7%
保健学部	臨床工学技士	100.0%	84.2% *
保健学部	救急救命士	83.0%	86.7% *
保健学部	理学療法士	97.8%	86.4%
保健学部	作業療法士	92.5%	88.8%
保健学部	診療放射線技師	98.0%	83.0%

*既卒含めた全国平均

2020年度 就職率

学 部	学 科	就職率
総合政策学部	総合政策学科	99.2%
	企業経営学科	91%
外 国 語 学 部	英語学科	98.8%
	観光交流文化学科	100%
外 国 語 学 部	中国語学科	100%

新入生へ新型コロナウイルス感染症の特別講義を実施

新入生が、新型コロナウイルスに対する正しい知識と、正確な情報を把握し、安全な大学生活を過ごせるように、「新型コロナウイルス感染症対策について」と題した特別講義を4月に行いました。

講師は、付属病院の救急部門で新型コロナウイルス対策を指揮してきた松田剛明副理事長が務め、ウイルスと細菌の違い、新型コロナウイルス感染症の概要、典型的な症状、PCR検査、有効な感染対策、対面授業を受ける際の注意点、日常生活の注意点などを説明しました。

また、最も感染の恐れがあるのは飛沫と接触であり、これを徹底的に避けることが何よりも大切であることを改めて強調しました。さらに、付属病院で続けられてきた多くの新型コロナウイルス感染症の治療実績なども紹介し、大学にある付属病院が皆さんを支援しているので安心して学業に励むよう呼びかけました。

医学部では新年度オリエンテーションで説明を行い、総合政策学部では感染防止対策のため教室を分け、中継でつなぎながら講義が行われました。保健学部と外国語学部ではオンデマンドで配信されました。



国際交流

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら学生の海外派遣、協定校留学生の受入は中止となりました。こうした状況の中、国際交流センターはオンライン海外プログラムの導入、留学報告会・グローバルセミナーのオンデマンド配信、協定校宛ニュースレターの発行等による国際交流の継続に努めました。

2021年度はこれらの取り組みの継続・拡充と並行して、秋学期の海外研修・留学プログラム、留学生受入再開に向けた準備を進めていきます。

【2020年度後期オンライン実施プログラム】

実施項目	時期	参加学生	実施内容
米国 旅行会社 インターンシップ	2月～3月	総合政策学部 2年生1名	日本人旅行者向けに、 観光地のリサーチや 案内書の作成などを実施
フィールドスタディV (タイ)	1月～2月 (6日間)	外国語学部 観光交流文化学科 1年～3年生9名	タイ山岳地域で開発支援 を行う現地NGO法人、 少数民族ヘインタビュ を行い開発支援を学ぶ
豪州アデレード大学 語学研修	2月～3月 (5週間)	外国語学部 観光交流文化学科 2年生1名	レベル別クラスで 英会話や文法などを学習
北京語言大学 語学研修	2月～3月 (4週間)	外国語学部 中国語学科1年生1名 観光交流文化学科2年生1名	レベル別クラスで 中国語会話や文法学習、 文化体験などを実施



2021年度オープンキャンパス予定

今年度のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症防止対策に努めながら、予約制で対面やオンラインでの開催を予定しています。また、学部・学科の取組みや入試説明などを大学ホームページの受験生サイトなどで順次公開していきます。

【開催予定日程】

学 部	日 程
医学部	7月17日(土) 8月7日(土)
保健学部	5月23日(日) オンライン 8月8日(日) 8月9日(月) 11月27日(土)
総合政策学部 外国語学部	5月23日(日) オンライン 8月14日(土) 8月15日(日) 11月27日(土)



※日程等変更する可能性があります。詳細は大学HPへ

医学部付属病院

最新PET-CT導入で悪性腫瘍等の検査精度が向上

2020年11月、放射線治療・核医学棟に最新のデジタル PET-CT「Cartesion Prime」を導入しました。

半導体を使用した検出器を用いた本機は、従来型PETよりも短時間で優れた画像を得ることができます。さらに、高感度な画像の取得ができるため、検査時間も従来の2/3ほどに短縮されました。放射性薬剤の投与量を低減することも可能で、患者さんの負担を軽減することができます。CTも検査時に被ばく量を低減する最新のシステムが導入されている他、従来のPET-CTと比較し、現状で最多となる80列の多列検出器が用いられており、高精度な画像取得が可能です。

また検査室内には、放射性薬剤を投与してから検査までの時間を過ごす待機スペースを6室設置し、薬剤投与から約3時間の待機時間をTVモニターが設置されたリクライニングチェアでリラックスして過ごすことができます。診療で使用するほか、人間ドックで2021年 2月からPET検査コース・オプション検査を実施しています。



東京都がドクターヘリを導入 当院が基地病院を受託

東京都はドクターヘリ運航事業を実施することを決め、当院がその基地病院として運営にあたることになりました。東京都は、東京消防庁と連携して、長距離運航や夜間飛行が可能な東京型ドクターヘリを多摩や島しょ地域において運用しています。今回新たに導入されるのは、東京都で初めてとなる専用ドクターヘリで、小型の機体は、短時間での離陸など機動力が高く、比較的騒音が小さいなどのメリットがあります。こうしたドクターヘリは全国の自治体や病院などが2020年3月時点で53機運用しており、出動件数は年間約2万8000件に上ります。

東京都は2021年度中に運航を始める方針で、搭乗する医師・看護師は、機体とともに立川市にある立川飛行場に常駐し、これまでの東京型ドクターヘリとも連携しながら機動的な対応にあたる予定です。



学会理事長就任

日本脳腫瘍学会 理事長
2020年11月就任

国内の脳腫瘍関連の学会・研究会の中で、40年程と最も歴史のある学会で、日本脳神経外科学会の脳腫瘍領域の分科会にも指定されています。永根教授は理事長として、脳腫瘍学の発展に向け、基礎及び臨床研究の推進、診療や連携の充実、情報の発信等に取り組んでいます。

脳神経外科
永根 基雄 教授

日本角膜学会 理事長
2021年2月就任

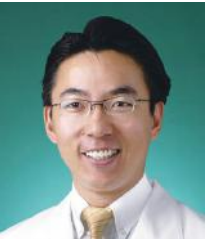
角膜は眼科のなかでも臨床研究や基礎研究の盛んな分野で、角膜上皮、内皮の再生医療やドライアイ研究などでは、日本は世界的にもトップを走っています。山田教授は、40年以上の歴史がある学会の理事長として、国際化と臨床研究の推進、情報発信等に取り組んでいます。

眼科(アイセンター)
山田 昌和 教授

乾癬性関節炎の経口薬の効果と安全性を腎臓・リウマチ膠原病内科が国際臨床試験で明らかに

乾癬は頭皮や肘、太ももなどの皮膚が赤く盛り上がり、銀白色のフケのようなものが付着し、はがれ落ちる等の症状がみられる病気で、国内には50～60万人程の患者がいます。そのうち10～15%に免疫異常とも考えられる、節々の痛みや腫れ等の乾癬性関節炎の症状がみられます。治療には、効果の高い、静脈または皮下注射の生物学的製剤が使用されています。また、これと同等の効果を示す経口薬として、関節リウマチ治療薬 JAK 阻害薬「ウパダシニブ」があります。

当院腎臓内科・リウマチ膠原病内科の岸本暢将准教授も加わった、世界45カ国での大規模な国際共同臨床試験で、この経口薬の効果と安全性が明らかにされました。本研究の国際共著論文は、医学会に多大な影響を与えている国際誌の一つ「The New England Journal of Medicine」2021年4月1日号に掲載されました。欧州ではすでに使用が承認されている本経口薬は、日本でも医薬品機構への承認が申請されている段階です。



岸本 暢将 准教授

進む新校地の整備

松田進勇記念アリーナ竣工

高度救命救急センター北側に取得した新校地で、2019年11月から建設が進められていた松田進勇記念アリーナが、2021年3月に竣工しました。

地上3階建てで、1階はバスケットボールコート2面のアリーナ、2階には柔道場、剣道場、スポーツジムなどが配置されています。3階は観覧席で、備え付けられた収納型の座席と1階の座席あわせて約3,200人の収容が可能となり、式典などでも活用されていきます。また、部室も最大26部屋配置され、学生が集い活動できる環境が整備されています。



建設概要：地上3階建て／延べ床面積 5,572㎡



医学部講義棟

松田進勇記念アリーナに隣接する医学部講義棟は、国内外の先進的な医学部施設を参考に、学生や教員のニーズを取り入れ、創造的な学習活動や知的探究の場となるラーニングセンターや併設のカフェ、少人数で学ぶチュートリアルルームや150人規模の講義室などが配置される予定です。

2020年11月に着工してから、順調に基礎工事と免震装置の据え付け工事を終え、1階床までの躯体（構造体）工事が完了しました。5月からは地上階立ち上がりの躯体工事に着手しています。工事は2022年3月竣工を目指して、引き続き進んでいきます。



建設概要：免震構造／地上6階建て／延べ床面積 約11,000㎡



中央病棟手術室増築計画

現在、当院には21室の手術室があり、新型コロナウイルス感染症拡大前の時点で、稼働率は90％を超える状況となっていました。今後、患者さんの手術のニーズ増加に応えられるよう、手術室を3室増築します。

増築手術室：より高度な手術を行うハイブリッド手術室 1室
内視鏡手術対応可能な手術室 2室
増築場所：中央病棟と高度救命救急センターの一部
増築延べ床面積：952.26㎡

【計画】準備・解体工事開始：2021年4月
本工事着工予定：2021年10月1日
手術室稼働予定：2022年夏季頃



J:COMチャンネル 杏林大学市民講座「学びの杜」6月スタート！

杏林大学はケーブルテレビJ:COMと連携し、テレビ市民講座を開講します。講座は、三鷹・武蔵野エリアの約12万世帯を対象に配信します。

放送開始の6月の講師は、大瀧純一学長と金田一秀穂客員教授です。今後の予定は大学HPでご案内します。

番組名：杏林大学市民講座 学びの杜
6月1日より開始
毎週 火曜日10時30分、土曜日17時30分(30分番組)



あたたかいご支援に感謝

日頃より、杏林学園を支えてくださる皆様のご支援とご理解に感謝申し上げます。

多くの皆様からご支援を賜りました寄付状況は記載のとおりです。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

■寄付状況
昨年4/1から今年4/2までの種類別件数と金額等を報告します
【教育研究募金】48件 214,405,000円
【医学部付属病院へのご寄付】63件 46,366,194円
【杏林大学医学部講義棟建設募金】84件 57,960,000円

種類	使途
教育研究募金	学生への経済的支援・奨学金・教育環境の整備を行います。授業・実習における新型コロナウイルス感染症対策のための備品・用具等の整備を行います。
医学部付属病院へのご寄付	医療設備・環境整備の充実とスタッフへの支援を行います。外来・病棟における新型コロナウイルス感染症対策のための備品・設備等の整備を行います。
杏林大学医学部講義棟建設募金	よき医療人育成のための教育環境を整備し充実を図ります。竣工予定は2022年3月です。

未来を担う若者と心のかよう医療のために 更なるご支援のお願い

杏林大学は建学の精神「真善美の探究」を通じて、人のために尽くすことのできる人材を育成して参ります。本学が社会への使命をさらに果たしていくために、今後も多くの方々からの力強いご支援を賜りたく、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

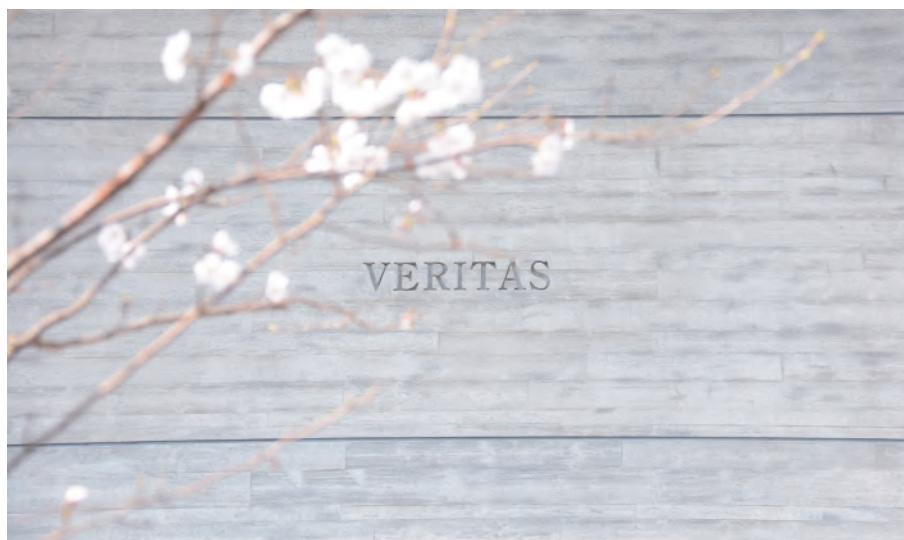
杏林学園募金サイトでは、寄付金受け入れ状況や医学部講義棟建設工事の進捗、寄付者の皆様からのメッセージ、各種募金について毎月ご案内しています。

今後も寄付者の皆様のご意向に沿えるよう、杏林学園の教育・研究・医療環境の充実と整備のために頂きました寄付金を活用させていただきます。

お問い合わせ先：杏林学園募金事務局（経理課内）
〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2
TEL:0120-50-1665（フリーダイヤル）
E-mail:bokin@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林学園
募金サイト





あんず Anzu 2021 | 春 |

学校法人 杏林学園

2021年5月21日発行

発行 学校法人 杏林学園

企画・編集 広報室

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL.0422-44-0611